

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成27年												平成28年														
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ~7日	8月 ~14日	8月 ~21日	8月 ~28日	9月 ~4日	9月 ~11日	9月 ~18日	
カンピロバクター	117	100	86	166	99	138	164	131	131	116	64	68	72	56	111	153	116	189	214	40	25	47	38	15	21	24	
病原性大腸菌	227	185	210	229	130	190	195	127	95	134	147	174	140	146	163	167	150	157	240	57	37	29	59	41	39 (42)	33	
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	
サルモネラ	9	2	5	3	7	9	20	37	14	36	19	11	12	4	2	8	12	4	19	9	4	2	6	3	2 (4)	2	
黄色ブドウ球菌 MSSA	44	32	29	27	19	31	37	26	18	26	15	25	23	20	25	14	19	32	14	5	10	4	5	7	4 (5)	5	
黄色ブドウ球菌 MRSA	20	18	12	15	15	21	15	19	14	17	22	21	11	11	16	21	20	27	24	7	5	4	3	5	5	3	
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
その他	3	1	1	0	0	2	7	8	2	1	1	0	0	1	0	3	3	1	9	2	1	2	5	3	2	1	
ロタウイルス	2	0	5	15	3	2	0	0	0	0	1	2	4	19	29	24	29	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	1	4	0	3	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
ノロウイルス	38	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	20	20	5	9	2	2	5	0	0	0	0	0	0	0	

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
*その他の1件はアエロモナスでした。

広島県感染症発生動向週報

平成28年第37週(9月12日~9月18日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	10	結核	10	1		2		1	4	2	
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1				1				
四類	5	重症熱性血小板減少症候群	1					1			
		デング熱	2					1	1		
		日本紅斑熱	2			1				1	
五類全数	6	アメーバ赤痢	1							1	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1					
		侵襲性肺炎球菌感染症	1								1
		梅毒	1					1			
		破傷風	1					1			
		薬剤耐性アシネトバクター感染症	1				1				

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島市、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北 部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdg/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第37週 9/12~9/18)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. RSウイルス感染症

定点当たり1.63人と、前週と比べてやや増加し、例年同時期に比べて報告数が多くなっています。また年齢別では、2歳以下の患者数が9割近くを占めています。

全国的にも増加していますので、咳エチケットや手洗いの励行など感染予防対策を徹底しましょう。

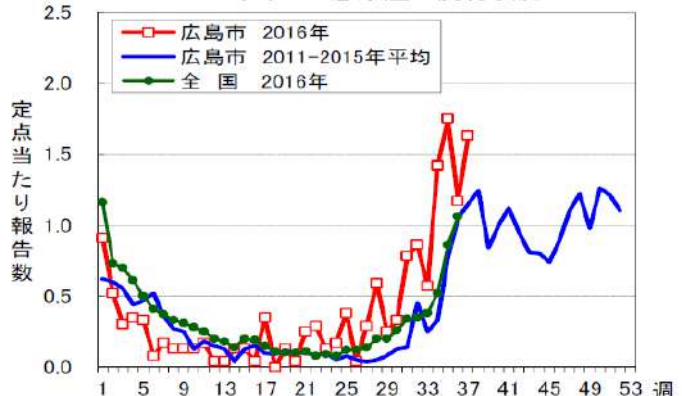
2. 感染性胃腸炎

定点当たり6.58人と、前週と比べて約1.6倍に増加しました。例年、秋から冬にかけて増加傾向にありますので、手洗いの励行や便・吐物の適切な処理など感染予防対策を心がけましょう。

3. 重症熱性血小板減少症候群

今年1例目となる報告がありました。

RSウイルス感染症の流行状況



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.05			小児科	流行性耳下腺炎	18	0.75	0.56		
	咽頭結膜熱	12	0.50	0.39				RSウイルス感染症	39	1.63	1.15		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	1.88	1.18			眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-		
	感染性胃腸炎	158	6.58	3.39				流行性角結膜炎	5	0.63	1.30		
	水痘	12	0.50	0.50				細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	17	0.71	2.67				無菌性髄膜炎	-	-	0.17		
	伝染性紅斑	10	0.42	0.19			基幹	マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.34		
	突発性発疹	8	0.33	0.40				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	百日咳	1	0.04	0.09				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	8	0.33	0.56									

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇔ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	111	男性(10歳未満)
4	重症熱性血小板減少症候群	1	1	男性(60歳代)・市外
4	デング熱	1	7	男性(30歳代)・推定感染地域:国外
5	梅毒	1	16	男性(50歳代)
5	破傷風	1	2	女性(80歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
流行性耳下腺炎	発熱(39.5) 嘔吐 嘔き気 頭痛	9	男	2016/07/09	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
流行性角結膜炎	角結膜炎	27	女	2016/08/15	結膜擦過物	アデノウイルス64型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点数入分のみ掲載